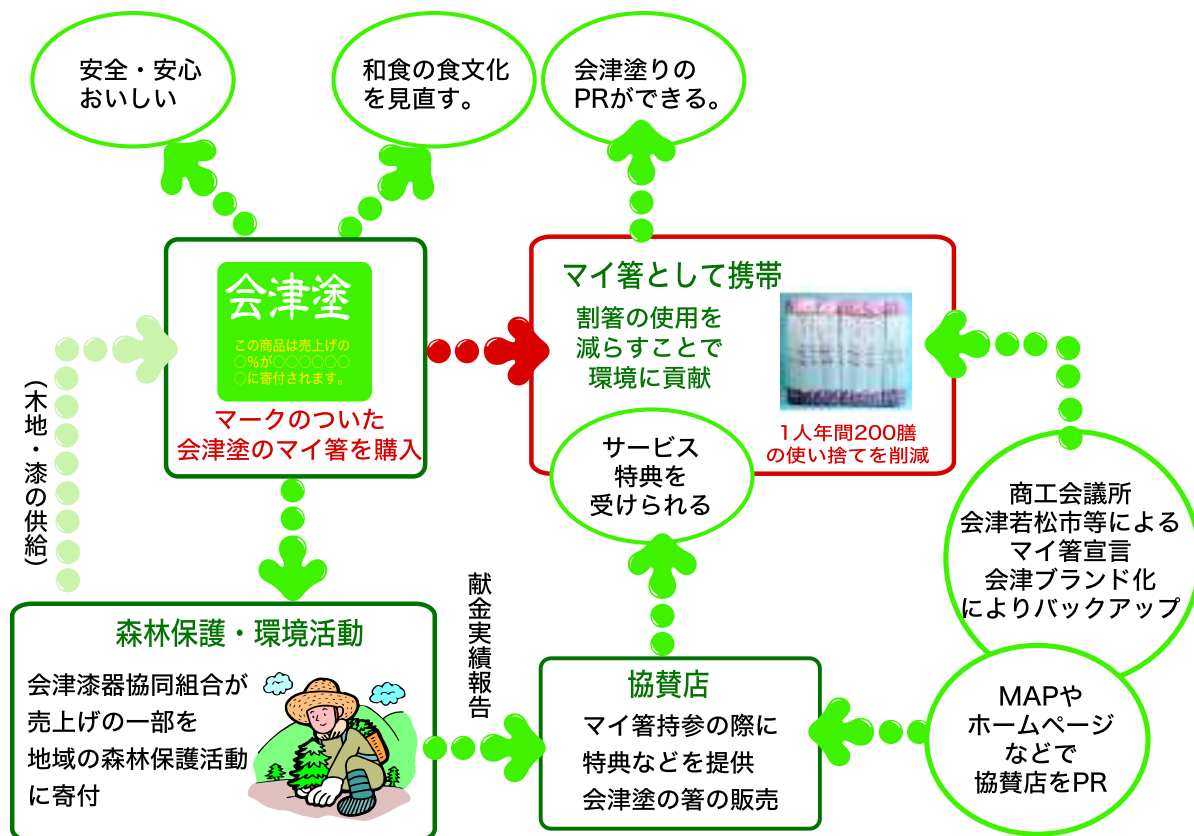


## ■提言のまとめ

### ■会津塗の箸を購入することで国内の森を守るしくみづくり

全国の塗り箸の80%以上が福井県小浜市が占めるなか、会津塗の箸として差別化をはかるため、商品の売上げの一部が寄付につながるようなしくみづくりを提案します。会津塗=『森を守る箸』としての付加価値をつけることで、消費者の（環境に貢献している）という精神的満足度を満たすとともに、将来的には地元材の活用を視野に入れるのが目的です。



箸は、命のもととなる食べ物を口に運ぶもの。

また日本人のアイデンティティを形成してきた文化でもあります。※1  
だからこそ、気に入ったもので、大切に、長く使って欲しいと考えます。

割り箸を伝統産業の会津塗りのマイ箸にするのは、考えるきっかけであり、取り組みのひとつです。

ひとり一人が実際に行動を起こすことで様々な問題意識を喚起し、すべての物事が自分の身の回りとの深い関係があることを気づくためのアイテムとして、マイ箸運動の推進及び普及をを提言するものです。

※1

日本人は箸を使うとそこに本人の霊が宿ると考えてきました。それが自分の箸を決めて使うという習慣につながっています。日本人の人生は箸に始まり、箸に終わると言うこともできます。つまり、生後間もなく、お喰い初めの儀式で箸を使い、亡くなった後の葬儀では箸を使ってお骨を拾います。また、亡くなった人へのお供えのご飯には、その人のお箸を立てます。箸はそれほど日本人の精神世界にとって重要なものでした。そもそも日本人が割り箸を使い捨てにしてきたことには、自分の霊が宿った箸を折って壊し、魂を自分に取り戻すという意味もありました。箸に関心を持つことは、そうした歴史を見直し、日本文化の奥深さにも触れることでもあります。

